

令和6年第17回教育委員会 議事録

日 時：令和6年12月4日（水） 午前9時00分から

場 所：香南市役所6階 604・605会議室

教育委員：三木守教育長、百田久範委員、中元啓恵委員、森本美穂委員、亀川孝志委員

事務局：門脇教育次長、小松学校教育課長、猪原こども課長、山崎生涯学習課長、
小松(泰)教育研究所長、山崎学校教育課長補佐

議 題

議 事

日程第1 議事録署名人の指名について

日程第2 議案第1号 香南市総合子育てセンターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について

日程第3 教育長の報告

日程第4 その他

- ・学校等の規模適正化の取組について
- ・第115回香南市議会定例会へ提案する議案等について
- ・令和7年度香南市小中学校ほっとスタート実践研究事業について

開会 午前9時00分

○教育長

第17回の香南市教育委員会の定例会を始めます。

日程第1「議事録署名委員の指名について」ですが、議事録署名委員さんは中元委員さんお願いします。

では、日程第2 議案第1号「香南市総合子育て支援センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について」よろしくお願いします。

○教育次長

議案第1号、香南市総合子育て支援センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について、香南市総合子育て支援センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則を提出する。

提案理由：行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴うマイナンバーカードと健康保険証の一体化に伴い、必要な改正を行うものです。

なお、本改正は、当該法律改正の影響を受ける他の規則とあわせて総務課において改正を行います。

補足をお願いします。

○こども課長

新旧対照表により補足説明をいたします。マイナンバー法の改正によりまして12月2日からマイナンバーと健康保険証の一体化に伴い、健康保険証の新規発行がされなくなりましたので、病後児保育を利用する際に添付いただいております「加入健康保険証の写し」を「加入医療保険の被保険者又は被扶養者であることを証する書類」に改正を行うものです。

施行日は令和6年12月2日です。

説明は以上です。

○教育長

ただいま説明がありましたが、この件について質問等ございませんか。

特にございませんか。

では、議案第1号につきましては、承認いただけたということでよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

○教育長

ありがとうございます。議案第1号、承認いただきました。

では、本日議案としてはこの1つだけですので、次へ移ります。

日程第3ですけれども「教育長の報告」ということで、自分の方からの報告の時間を取らせていただくようにしたいと思います。

以前「文部科学省が主催している教育委員・教育長の交流会があって宮城に行きました」という話をさせていただきましたけれど、それが年間何か所かであるのですが、先日、福岡でありましたので報告させていただきます。

宮城のときには高知県は香南市しか行っていませんでしたが、福岡のときには高知県から「いの町」も来ていましたし、確か3つぐらい来ていたと思います。

その交流会で、事前テーマで「不登校対応のグループ」と「地域連携のグループ」の2つのグループがあり、自分もそこへ入らせていただいて交流を行ってきました。

最初が「学校と地域」とのことですが、これについては自分のいたグループが僕以外はみんな教育委員さんだったので「こういうふうにやっていきたいと思っている」みたいな話はなかなか出てこなかったんですけど、その代わり「自分ところの実態はこんなふうなことですよ」というような意見交換の場になりました。

お話をお伺いして、学校運営の中に地域の方がいて異動も含めた学校運営の中軸に地域の方が入ったシステムというふうなことは出てこなかった。全国の教育長会に行ったときには、そこまでやりきっているところの話も幾つか出ましたが、昨日の会ではそこまでの話は出てなくて、どちらかというと「地域行事に子どもがこんなふうに関わっています」とか「学校にこんな応援に来ていただいています」とか、正直言えば香南市の今の実態とほぼ同じぐらいのレベル。ただ、香南市の中では、人事のことについてもその会からの申し入れがあったりしますので、少し踏み込んだところには香南市のほうがどちらかといえばできているのかな、という印象を受けました。

そんな中で特性があったのが、北海道の恵庭市からおいでた委員さんからの「地域にどれぐらい子どもを参画させているか」という話でした。その話の中で、例えば町内会が主催して行うイベントや広報誌の作成に中学生の席が「委員として」ある。広報誌が中学生にお願いして何かのイベントを取材に来るという話ではなくて、広報誌を作る委員の中に中学生がいる。

それから、地域にある大学の大学祭の中で、町内会として出しているブースに中学生が出ている、町内会に所属しているの。

そういう地域の中での子どもの主体的な位置付けの話は、ちょっと刺激的でした。

それから、ここは地域で行う避難訓練がある日には、中学校は部活動よりもそちらを優先し、部活動を止めるそうです。学校は「地域の避難訓練に参加しなさい」というふうに子どもには声をかける。そこらあたりが、地域と子どもとの関係と学校との関係が、何かに含まれるというよりも3つが独立しあって、それぞれが主体というようなシステムがあるような印象を受けました。

あとは、どちらかと言えば地域の方が、学校のガーデニングのお手伝いに来ていますよというような、そういう地域の方の学校への入り込み、ボランティアでの関わり、そういった話がほとんどでした。というのがまず1つ目のグループの中のことでした。

2つ目は「不登校対応の話」のグループで、このグループは、グループ全員が教育長でした。ですから、かなり突っ込んだ悩みごとなども話題として出てきました。

教育長が4人頭を突き合わせて話していたからというのも多分あると思うんですけど、その話題の中で、その不登校の背景は、町村によって全く違うということを思いました。

本人の特性が理由とか、ご家庭が理由という部分だけは共通ですけど、特に沖縄などは全く違うことにすごく悩んでいました。

教育施設としての認可はされていないけれども、その時間預かりますよ、という「フリースクール」は、オールイングリッシュの内容でやるので「通常の学校に行かせるよりフリースクールに行った方が将来この子のためになる」という考え方で、親はフリースクールのほうに行かせたい。でもそこでは出席にならないわけですが、それを出席にすべきじゃないか。でもフリースクールでやっているのは、文科でいう教育活動にのっとったことを、その資格のあるものがやっているわけではないので認可はできませんよね、というそのせめぎ合いにものすごくご苦労されていて「フリースクールに行っている子どもたちのことを不登校と呼ぶか」、そんなことで収めどころがないことに当たっているような話が出てきました。

ただ、その後の人生が将来的にそれでどうなるかという、ほかの不登校のことと同列には絶対考えたらいけないレベルの話ですよ。そういった問題にぶつかっているという、何か他の町村としては聞くだけで、アドバイスは何も言えない話になってしまったんですけど、そういった話題でした。

あと、事前に自分のところがどんなことをやっているかという資料提出がありましたが、「これは」と思ったことが「学校に月に1回スクールソーシャルワーカーが来ている」と書いてあるところもあって、それは「うちはこんなふうに取り組みができているんですよ」という書き方なんです、月に1回のスクールソーシャルワーカーが来ていることが。

香南市としては人数にしてもその数じゃない。それから学校へ入り込む時間にしても全然違うレベルのことをやっていますし、森田村塾もある。当然のこと、各学校にはいざとなった場合には別室がある。

そういった詳細な対応が、香南市の学校同士の中では差異を感じませんが、香南市から出て行って話を聞いたときには、これほど充実させているということに、すごく大きな差を感じました。

ただ、もう1つ、教育長ばかりで話したときに、不登校の背景の中に「教師の資質」という話も出てきました。どれだけ学校が、学級担任が、不登校傾向にある子どもや不登校になってしまっている子どもに対して、どこまで自分の責任としての向き合い方に腹を据えることができるか、そういう意味を持って「教師の資質」という話になっていきました。

それと、うちの非常に丁寧なこのシステム等ですが、他市町村が「もっとスクールソーシャルワーカーにお金を出して集めたらいいではないか」ということにならない理由の中には、もしかすると「学校の責任」という考え方が、どこかで薄くなってしまうように感じる中での今なんじゃないか、というのを、その場にながら私は感じました。

そういったことがあったので、昨日、校長会・所属長会がありましたが、所属長会の最初の挨拶の中では「スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、それから森田村塾、或いはその学校の中にある別室対応の支援員、これらのことについては、教員にとっての働き方改革の延長線にはない、ということを学校の中では明確にしてください」「あくまでも子どものために必要な施策として、同じ時間に1人の教師が2ヶ所で見ることにはできないので、そのうえでは必要な方法ということであって、働き方改革、教師の仕事の時間軽減のために役割を分担するんじゃない、そこをはっきりさせたいです。」ということをお話ししました。

もちろん学校からの要望としては、実際に困っている実態からすれば「より多くの人を」という声はこれからもどんどん挙がると思います。挙がると思いますが、そのせめぎ合いの落としどころを考える上では、他市町村の「もう1つ違う慎重さ」も自分たちは考えないといけないのかな、という宿題をもらった感じを受けました。

例えば、ある市の学校では完全に分担制で、先生以外の支援員がほとんどいないわけです。皆お互い仕事あるので、もう最初から「誰々ちゃんは誰々先生」という、学校の中で先生同士のグループ分けが全部できているそうです。

うちはそのグループ分けをせずに、そこに支援員が入るわけですよ。特別支援学級は別ですよ、それはもう最初から規定として分かれていますので、担当がいるのは当然ですけど。そういうこととは違う「担当」を支援員であったりスクールソーシャルワーカーであったり、それから時間によってはスクールカウンセラーであったり、ということで分けています。

けれども、そこはそういった人達を入れていない。その数が十分でないところは教諭同士の

間で詳細な分担をして「いつ誰が見に行く」ということでやっている。そういった対応をせざるを得んから、ということだと思えるんですけど。

ただ、それをうちと比べたときに、遅れていると判断するのか、とことん教員が関わりきれない限界の関わりをしようとしていると評価するのか、何かそういったところを悩まされたというのが、今回行ってきての感想です。

それをもって今のうちのやり方をどう変えていこう、という提案を今持っているわけではないですけど、ただやっていることを本当にきちっとプラスに働かせるためには、心構えというか、教員がこの今のうちのシステムをどういうふうを意識するかということについては、やはりないがしろにはしてはいけないというふうに思いましたので、そういったことを所属長会の中ではお話をさせてもらいました。

もう1点、所属長会の際に不祥事の件についてお話をしています。

保育・幼児にしても小学校・中学校の教師にしても、絶対条件として、採用試験を受けに来るとなったときに、子どもが好きとか、子どもがかわいいと思わない人間はこの仕事につくはずがない。

ただ、この好きとか、かわいいという個人的な感情がどの範囲であるかで、この仕事の絶対条件の「適正」というレベルから「犯罪」といわれる間を、私たちは確認をして採用ということとはなかなかできない。或いは職についてから感覚が変化していくことだってあり得る。

ですから、まず1つできることとしては「戸が閉まったような部屋の中に2人だけという状態には、絶対に置かない。必ず戸が空いていたり、複数で対応していたり、そういう物理的な条件で回避できることはしっかりとやってください」ということを話しました。

それともう1つは、本当は何もなかったのに、子どもの感覚、子どもの言葉で「何かがあった」ということが外部へ出たときに、2人だけしかいない場所で「本当は何もなかった」ということを証明することは到底できることではないので、そういうことに巻き込まれないためにも自分を守るためにも「第三者から見える、或いは第三者が入って来れるという環境にしておくことは大事だ」という話を昨日の所属長会で自分のほうからさせていただきました。

まず自分のほうとして、今日報告させていただこうと思っていたのはそういった内容ですけども、どうでしょう、ご質問、ご意見がありますか。

○百田委員

ありがとうございました。

地域連携に関しましては、土佐の第一次教育改革が平成の10年ごろでしたかね。あのときも、学力向上と教員の資質の向上と学校と地域の連携、あの当時からどうなのか、というのは今までもやってきたと思います。

地域との関わりは、公民館活動、平成12年、13年にまちづくり協議会ができて、その当時は結構子どもたちも巻き込んでの行事、子どもが主体ではありませんでしたが保護者が主体になって、子どもたちと地域の行事へ参加したりしてましたけれど、それらが徐々にコミュニティが少なくなり、コロナで完璧になくなって、まだまだ以前のように地域の関りができていないと思いますので、また生涯学習教育の中でいろいろ取り組んでいってほしいと思っています。

コミュニティスクールに関しては、自分は学校評議員としていろいろしなければいけないですけども、任期1年ですかね。しっかりと規約もありますので、人事に関しても決算や予算、学校行事に関してもしっかり発言ができるのだということを再度、新しい方に規約も見せながら説明していただいて、こういう活動をしていただければなと思います。

避難訓練や一斉清掃とかは、うちの周りは子どもたちとか親子での参加はほとんどなくて、一斉清掃自体も避難訓練も年々参加者が少なくなっている状況ですので、その辺の一考の余地があるのかなと思いました。

あと、不登校に関しては、教員の資質というお話しが出ていましたけれども、土佐の教育改革の二次も出ただいぶ経つので、その辺また再度振り返って、どうかなあと思いましたし、不登校に関しては、全国は年々数字が上がってしまっていて、その中で香南市が減っていると言っていると思います。その辺が森田なのか、先生方、支援員、SSWなどとの連携の中で子どもたちにも家庭にも寄り添ってやっているということは素晴らしいのではないかなと思いますので、その辺をより一層、強く進めて行っていただければと思います。

不祥事に関しては別にございません。

○教育長

ありがとうございました。

○生涯学習課長

自分が言うような話ではないのですが。

百田委員が言われる地域との繋がりという時に、もともと平成 12 年とか、平成 10 年ぐらいは旧町村に「生涯学習推進計画」というのがありました。生涯学習推進教育の中に「学校教育」があった。「社会教育がメインで一部が学校教育だ」という教えがあって、地域との連携が当たり前ということで繋がっていたのですが、それを高知県はやめて、学校教育は学校教育、家庭教育は家庭教育、というように分けだしたので、繋がってないです。

自分もこの立ち位置でどうしゃべっていいかわからないのですが、こども課が今やられている施策などは、5 時以降、6 時 7 時と「親以外が子どもたちを見守る」ということをやっていくと結局、親と子どもが接する時間がどんどん減ってきたり、地域と親がつながる時間が減ってきている。本当は働き方改革で 5 時 15 分に帰らして、親と子どもが接する時間が多くなるといけないのが、保育をどんどん充実させていって、要は親が楽になる時間帯を作っている。そういう時間が増えていくと、親が地域と繋がる時間がない。そうすると、一斉清掃の時にも親は子どもを連れてほとんど来ない。だから僕はどの方向を向いて進んでいるのかが見えないのです。

一生懸命、保護者のことを考えて「保育を充実させていきます、今回は 7 時まで延長します」とやるのが本来のやるべきものなのか。本当なら、会社を 5 時 15 分に終わらせて「子どもとの時間を作りましょう、地域の時間を作りましょう」ということが、むしろ教育の進めていくものではないのか。家庭教育をやる時間はその時間しかないのにできない。

自分はみんなの前で「今後、家庭教育を進めていかないといけない」というふうには言っているのですが、親と子どもと地域をつなげる時間帯がないので、それがすごく歯がゆいというか、施策の中で充実させているわけですけど、やり過ぎじゃないかと思ったり。

教育長の今の話も十分わかります、自分も子どもの頃そうだったので。地域と繋がって、自分らは中学校部会で花火を作ったりしていたのに、今の中学生は来れませんよね、塾があったりするので。親と会話する時間も少ない中で、何かこう、全部がやりたい方向が繋がってないような感じが見受けられるので、各々で頑張れと言われてはいるけれど、みんなゴールがわからないまま頑張っているような気がしています。

百田委員が言われていますが、昔を想像すると、もっと子どもたちが自分の親以外の地域とつながる時間が多かったのにそれが徐々に減ってきているようには感じられます。

○百田委員

親は大変で、平日 2~3 回、水泳とか陸上、バレー、野球、サッカーで、土日はほとんど試合。自分も含めて高齢者も集まる機会がなくなった。前は、ちっちゃい子どものまつりごとにしても、みんなで集まって飲んで、という時代から流れ流れて、これから先、子どもたちの生きる力をどうやって育てていくかということを皆が集まって考える時間もない。

香我美町ですが、昭和 50 年ごろにまだ生涯学習と言っていたころには、一家庭へ A3 ぐらいの大きさに「乳児期にはこうこうで、親子の信頼関係を持ちましょう。幼児期のどうのこうの。青年期、成人期、熟年期、高齢期には、こういう姿が望ましい姿ですよ」ということで、みんなの家に配りましたね。

そういったことで、ある程度この年齢になったら社会との関わりをしっかりと持って行こう、とかいうことでパッとみて考えられるけれど、今は生活することが精一杯の家庭も結構多くて、就学援助もどれくらい増えているのかわからないですけども、そういったことで問題を出したらキリがなくなります。

○森本委員

教育長が外のことを聞かれて、面白い事例があるとおっしゃった中学生がいろいろ地域に関わっていくという話ですけど、そういうことは学校のほうが働きかけていくというイメージなのか、それとも学校のほうへ地域からいろいろ働きかけをしてもらいたいというのがいいというイメージなのか、どちらなのでしょうね。

○教育長

多分、両方だと思います。この内容は学校からでないが無理、この内容は地域からでない

無理、というのがあるので。

今はネットがありますけれど、教員が与える情報では空論的なものであって実態にさわることをできない、画面の中で聞くよりも地域の中に当事者がいるので話が聞けるのに、と言うようなところをつなげてあげたい。そのつなげるのは自分が聞いてきたような話じゃなくて「本人から」ということをイメージする学校が地域とつなぐということについては、学校主導でないと駄目ですね。

もう 1 つのパターンは、「地域にとって、子どもは学校に通っているけれど地域の子」という感覚が地域の中にあると、例えば避難訓練に子どもも参加させたい、だから部活動もわかるけども、その日は試合でなければ子どもらにはこっちのほうを優先してもらえないか、ぐらいのことを地域は言っていると思います。そういう立ち位置。

そういう関係性の中で生まれてくるものと、学校主導のものと両方どちらもあるべきだと思います。ただ、どちらもあるべきですけど、今の実態からすると、そういうふうなことができあがっていくためのスタートで言えば、学校がきっかけになったほうが、そういう場面が生まれやすいだろうと思います。

場面が生まれて人が集まった中で、それが 2 年目 3 年目となっていくときに、その主体が動いていって地域のほうによりウエートがかかっていき、流れができたので、ここからは地域が軸でやっていく、そういうふうなことはできていくんじゃないかなと。

だから、両方あると思いますし、学校だけにしてしまったときにやっぱり残念ですけど、「こんなに働き方改革を言っている時に、学校でやるべきこと以外のプラスアルファの何をこれ以上」という感覚とのせめぎ合いになるので、ボランティアであったかどうかは別にして、部活動ですら地域移行、というこの時代の中では、それはなかなか、というのはやっぱり思うところですね。

○森本委員

私の実感としても、今現在、学校は教育長がおっしゃったみたいにいっぱい、いっぱいじゃないですか。学校がやる避難訓練に参加していただくとか、そういったところは学校がしっかりとお声掛けしてやっていくべきところではあるけれども、それ以外でなかなかそこまでの熱意というか、先生のスキルもいるでしょうし、そういう人がたまたまいたときはうまくいくけれども、それは難しいと思うんですね。

地域からでうまくいっているパターンも、たまたまその地域にそういう熱意のある方がいらっしゃって、さらに今高齢の方が多いところは、昔は地域のためやらなければという方がたくさんいらっしゃった。もう若い方でそういう方は難しい。

でもそういう方がたまたまいる地域があると、例えば夜須ですと、公民館の館長を今すぐやりたい人がしてくださっているから、この間もちょっと見ましたら、マリンホールが勝手にやるんじゃないかって、コンサートでしたら「何かここに子どもが入れないかな」というのは考えられてみたいで、チラシを見たら「チラシを小学校のほうと一緒に考えてます」とか、そのコンサートに「この人にちらっとお話しに行ってもらいました」とか、それは別に学校が頼んでないと思うんですけども「子どもたちのために文化教育をつなげることができないかなとか」と考えている方がたまたまいらっしゃった。

○教育長

属人に頼るところが大きいですね、どうしてもね。

○森本委員

そうですね。赤岡だったらお祭りにも小学校から保育園まで作品作らして、町中の人がたくさん参加してくださるけど、それもたまたまそういった人がいて、何回も足を運んで頼んでくれたというのがある。

○教育長

それは、町村の独自の条件というのは当然あるとは思いますが。

向こうに行ったときに、1 つちょっと自慢げに紹介したのが「夜須の廃品回収」。去年、自分が校長でいた時は廃品回収のスケジュールを決めたり、トラックを手配したりとかいろいろなのは教頭先生が軸でやっていたんですよ。でも教頭先生はもう去年で退職することがわかりきっていたので、では次の年も同じように教頭先生が軸でやるかと言っても、引き継ぎが重複しておればシステムできるけれども、出て入って、という中ではなかなか大変だろうと。

そしたら、そこを「出て入ってしない人間」が引き継がないかんよね、となったときに、結果的には生徒会執行部が引き継いだのですね。「どんなノウハウで、どういうふうやって」というその段取りの付け方を生徒会執行部が引き受けて、生徒会執行部が地域にお願いをして、生徒会執行部が、廃品が集まってくる場所に誰が立つ、そこに対して車を出してもらわないかんというふうな車のお願いなども常に生徒会執行部が軸にいて段取りをつけて、今年度の夜須の廃品回収の1回目がそれで終わって、そこで集まった額は去年より多いのです。

年度末に、来年これどうする、となって「生徒会でやるしかないよね」って言っていたときには「お金が減るのは仕方がない、でもシステムでやるのが大事。地域と子どもとがガッツリ繋がるシステムを作ることの方が大事だから、お金が減っても生徒会でいこう」と言って決めていたら、今年の生徒会が本当に頑張っていて去年よりもお金が多かったという。

そういう「生徒がどれだけ主体性を持つか」、地域が主体性を持つ、学校が主体性を持つ、生徒が主体性を持つ、そんなことはいろんな方法でやってみて、一成功例として、福岡でも紹介しました。

○森本委員

私も思いましたが、かなり高齢者が多い高知県において若い人といったら、やはり子どもしかいないわけですが、でも彼らに余暇の時間でボランティアをやって、というのなかなか難しい。その辺はやはり学校のほうが、時間をどれだけそこに充てれるかというところだと思います。時間外となるとなかなかできないから、生徒会執行部の廃品回収はうまくいったと思います。

小学校で、これはいいなと思うのは、たまたまその子どもにやらせたい先生がいたときに、その先生が子どもたちに地域との関わりを持つような何かを任せる。「総合の時間」とかがあるからだと思いますけれど、それもずっとうまくいっていません。

子どもたちが一生懸命やるから、地域とどんどん関わって行って、何かやらされた感が全然なくて。でも、それはやはり時間がないとできないので、何を削って何を充てるかというのは、学校の判断なのかなと思います。

○学校教育課長

総合的な学習の時間というのが、教科書がない中での探究活動なので、夜須なら夜須の問題を課題設定して、それを情報収集し、整理分析して、何かをまとめ、表現する。そしたらまた新たな課題がさらに出てくる。また新たな課題設定、情報収集で、どんどんスパイラルで探究していく。そういうのをどの学年でどうするかというのは、言われたとおり、その先生と子どもとの間で課題を設定する。「これをやりなさい」となったら、これは子どもたちの課題ではないので、やはりそこを一緒に進めていく。その町の今の問題点、課題を地域と一緒に考えていくということは、やはり総合的な学習の時間が一番地域に出やすい。

これは、一緒に考えていく一つのきっかけになる。それを防災で考えていくのか、まちづくりで考えていくのか、産業で考えていくのか、人口とかいろいろ。同じことでも、中学校になったらまた高いレベルになるだろう。小学校の時代に人口のことをやったけれど中学校でやったらまた高いレベルで探究していく、というようなことになるとと思いますね。

○森本委員

子どもからいくのいいのは、子どもからいくと子どもの保護者は香南市の若い世代ですね。子どもから頼んでもらうのが、地域の活動に一番気持ちよく文句も出ずに参加できるかと思うんです。

クラブ活動とかスポーツ活動だと、もう否応なしに保護者が週末時間を作って参加しているので、参加していくうちに「もうしょうがないな」というところから、自分も楽しく参加して、そこで知り合いになったりとかしているの、そういった方向性があるのかなと思います。

○百田委員

総合の時間で小学生にミカンのことに関して自分のわかる範囲内でお話しをさせていただき、意見ももらい、自分も反省したのですが、あれを進めてもう少し「ああしたらいい、こうしたら」という話まで聞ける場があれば、もっと関わりが深くなるのではないかなと。

野市中へ行ったときに廊下にみかんのポスターのようなものがあって、そういう話も学校内の一部の教育関係者にしかわからない。

この前、香我美中の文化祭で生徒会のニラのプレゼンがありましたよね。

例えばニラの話だったら、もうプレゼンする内容がわかっているの、ニラの生産者の代表とかを呼んで「子どもたちからこんな意見が出て、それを反映させていこう」とかいうところまで広めていけば、子どもたちも地域のためにできたという達成感があるので、学校の中だけでいろんな話が出て、それを地域なり産業などにどうゆうふうにして広めたらいいのかなというふうに思いました。

すごくいいプレゼンでいい提案がありましたが、ニラの部会まで果たして届いているのか、届いていないのか。

○学校教育課長

市長に提言したのですね。

○教育長

そうですね、子どもたちがね。

○亀川委員

提言では、市長とそれから農林水産課長と商工観光課長ですね。

○学校教育課長

そこを実際に一緒に見ていませんが、自分たちが提言なり発表したことが、何か少しでも実現したらそれが糧になるだろう。けれども、まだこれぐらいのレベルでは市のレベルとしては成り立たない。まだ理想だけで財政のことは考えていないので、逆に言うと突き返し、もう 1 回それで探究する。「なかなかそういう甘いものではないよ、ここらもうちょっと考えてもらいたい」ということも、さらに学習にもなる。

また、それでも一部が何かに採用されたとか、廃品回収量でもアップしたとか成果が出たなら、次のまた探究をする。さらに「今度はもう 1 つ新たな提案をしよう」とか、次の探究に入ると思うので成果はある。うまくいかなかったのも成果であり、失敗を繰り返す中でまたさらによりよいものへ深まっていくので、提案したことが何でも OK としたら、これはまた育たなくなる。

総合的な学習は、駄目なところは「まだ、ここは駄目」と言うことも学習の 1 つになるというような考え方ですので、そういうことでお互いにより良くなっていければ。

○中元委員

そういった学校の中での教育活動という場面で「自分たちが、地域と地域のことに對して何ができるか」ということを考えたり、深めたり、探究したりっていう時間は結構取れていると、学校訪問してお話を聞いていても十分にそういった部分はできているとは私は感じています。

それ以外のところで、といっても子どもたちは今、習い事も部活も忙しいし、保護者のほうも仕事の働き方も随分多様化していて、私もシフト制ですし、5 時に仕事上がるわけではない人、平日しかお休みがない人、土日はずっと仕事の人とか、いろいろいます。

避難訓練だとか、例えば市内一斉清掃だとか、ほとんど香南市の設定している日は日曜日です。物部川の一斉清掃が 7 月にありますが、あれも日曜日なので、そこにわざわざ「私の住んでいる地域の一斉清掃だから」と思っても、子どもにもやるのが、親には仕事があるとなってくると、なかなか学校教育活動以外で地域と触れ合うというのは、本当に難しい状況になっていると思います。

私の子どもたちが 5 年前 10 年前小中学生だったとき、町内の地区の運動会もあるっていうお知らせは来るんですけど、やっぱり部活しているし、習い事している。私はその時、班長だったので行ってみると、割と高齢者の人の運動会みたいになっていて、来ていたのは、小中学校、保育所の子どもぐらいかな、高校生もほとんどいなかった。

そういう現状を考えてみると、以前はできていたことが、わざわざそれを設定してあげないと、今参加すること自体が難しいので、学校側からなのか、地域の住民の方のほうからなのか、どちらかが声を上げてわざわざ設定をする。それに合わせて、例えば部活であれば「試合でなければ、こちらへ行くことを優先してください」という話にしてもらうことを、教育長がおっしゃったように、二、三年やっていると、きっと皆さん来ることが当たり前、行くことが当たり前になっていくと思うので、地域の皆さんがやっている活動の場面に子どもが参加しているということになっていくとは思っているので、まず設定することから始めたほうがいいと思います。

実際、避難訓練も高齢者ばかりです。土日、仕事している方多いですよ、今。本当に普通にカレンダーどおりのお休みの方は、大分少ないと思います。

○教育長

人が集まるのには、集まらざるをえんで集まる。楽しそうだから来るには限界があつて「お互いが困っている」という状況の方が、僕はもっと人が集まる状態にはなると思うんですね。「困っているから、助け合い」だと思うんです。

日向灘のことがあり、土佐清水の方で被害がありましたが、県の教育長会の中で「どれほど中学生が活躍したか、すばらしかった」、その子たちが学校の授業がどうか、成績がどうか、そこはまた別にして「地域にとって中学生がどれほど大きな力だったか、本当に誇らしい」という話が出ました。

それから、先日、全国の教育長会で福岡に行きましたが、その次の日が、全人権大会で久留米と鹿児島も含めて熊本が開催地でしたので出席しました。

その全人権の報告の中に能登の中学校の先生の報告がありました。報告している時間には間に合わなくて、報告の後の協議の時間に部屋へ入りましたけれど、結局、やはり一緒に「中学生が地域を助けた」という話です。

中学生のために地域が何をやったか、というより「中学生がどれほど地域に貢献したか」。大変不幸な出来事だけれども、それを通して子どもたちの成長は目まぐるしく、そのすばらしさを中学校の先生が報告をしていました。

夜須中学校が今、生徒会の方で手をつけ始めているのが、お家のあるところの「縦割り班」です。学校にいるときの避難訓練をしています、家にいるときに地震が起こったらどこに逃げるべき、どこに行くべき、というのを縦割り班で話し合うというのを始めています。

一緒に逃げるのは親なので当然その考え方が PTA に広がり、自分の家族や近所だけで逃げるわけにはいかないので「周りの人たちにも声をかけて」というふうなことになっていくと、きっかけは学校だけれど、地域を巻き込んでいく。

それについての話し合いに頭を寄せることに数年かかるかもしれないけれど、定着するとその地区代表の、お歴々の方々がもっと主体的に子どもを巻き込んだ場所で、防災のことについて話し合いがされたり、実際にそこででき上がった避難訓練であれば、家でテレビを見ることはないと思うんですね。作るところに子どもが噛み入るので。

香南市として、今 1 つ起爆剤にできる大きな材料は「防災」じゃないか、とは思いますね。

校長会、所属長会のほうでもお願いをしましたけど、教育委員会で前もお話ししたでしょう、「上履き」の話。東北へ行ったときに、上履きはもうなくなって全部靴になっていると信じ切って、話を聞いたら「いやいや上履きに履き替えます。その代わり履き替えてもスニーカーです。履き替える相手は外を走るための靴です。」と、履き替えはするが靴が上履きになるということでした。

それを香南市もそういう方向で定着させようというのと、入学式とか卒業式とか参観日には当たり前のように学校ではスリッパを構えるけれど、あれをやっていて地震が来た時、親がスリッパで走れないとなると、子どもは親を気にして走ったらいいのに走れずに戻ってきて親子で亡くなるということも考えられる。そんなことを思っても、スリッパは学校にはあるけれど、基本、外の方に学校に来ていただくときは「靴を持参してください」ということも願います。

そういうふうなことも案内文章の中に、保護者であれ、来賓であれ「靴を持参していただきたい」というようなことも入れる。そんなことで防災に対する意識をちょっとでも発信していく。

「今、大事な軸はここにありますが」ということを今は学校、保育所、幼稚園への発信になりますけれども、時間かけてになりますけれども、定着してくると「だったらうちも」というようなことになっていけばいいと思います。

「教育長の報告」で多くの時間を取ってしまいましたけど、あとまた「その他」がいくつかありますので、休憩を取りましょうか。

では、あの時計で 10 時 15 分から再開ということで、一旦休憩を入れたいと思います。

(休憩)

○教育長

それでは再開したいと思います。

日程第 4、その他「学校等規模適正化の取組について」をお願いします。

○山崎学校教育課長補佐

すでに 12 月議会の定例会の市長の諸般報告でお伝えした内容ともうほぼ同じ内容になりますが、学校の規模適正化等については、令和 5 年 10 月に基本方針を策定して以降、保護者や地域住民の皆様から多くのご意見もいただき、それらの意見等をもとに年明けから保護者や地域住民の皆様にお示しする再編案について協議を重ねてきました。

再編パターンの内容については、一番冒頭でご説明させていただいた内容ですが、南海トラフ地震や自然災害から子どもたちの命を守りつつ、人口減少が進む中においても、ある一定規模の児童・生徒・学級数等を維持したうえで、子どもたちにとってよりよい教育環境を保つことが可能な、基本方針に沿った再編案や、津波浸水想定区域内にある学校等の津波浸水想定区域外への新築移転など、基本方針とらわれない再編についても協議を行ってきました。

一方で、8 月 8 日に発生した日向灘地震による津波注意報と、当日の夜に出された南海トラフ地震臨時情報、巨大地震注意を受けまして、赤岡保育所と吉川みどり保育所の保育場所を野市東保育所と野市東幼稚園に移転するという案について、関係者との時間をかけた意思の疎通の重要性を再認識したことや令和 7 年度の香南市津波地域づくり推進計画や、同じ事前復興まちづくり基本計画の策定、また 8 年度から 5 町の事前復興まちづくり計画の策定に向けて、順次、住民ワークショップや、地区検討委員会を防災対策課で進めていくこととなっています。

そのことを鑑みて、市長判断となっておりますけれど、今回の学校等の規模適正化等の複数案をお示しする前に、先ほども言いました津波防災地域づくり推進計画及び事前復興まちづくり計画を進める過程で、今まで以上に次期南海トラフ地震に対する現状と課題を市民の皆様とともに学習し、防災、減災意識の共有を図ったうえで、学校等の規模適正化等を進めていくことになりました。

また、共有化された再編案の中には、小中一貫校、新築など多額の一般財源が必要とされるものがあり、実現のためには市の施策全般への影響も考えられることから、お示しするには、将来の財政の収支見通しも踏まえた内部の十分な検討が必要という判断を市長はしております。

そうしたことから、今後の規模適正化等の取り組みについては、保護者や地域住民の皆様に対し、今すぐに再編案をお示しするのではなく、次年度からの防災対策課の取り組み状況を踏まえて、より慎重に時間をかけてしっかりと進めていくということになりました。

教育委員会の今後の取り組みにつきましては、今年度は引き続き最新の人口動態をもとに各学校における児童・生徒・園児数の将来推計などの学校の状況分析を行っていくとともに、令和 7 年度は児童生徒を対象としたアンケート調査を実施することや、また防災学習の見直しなども検討していきたいと考えています。

なお、野市地区において、よく出ている話なんですけど、希望する保育所に入れないという現状に対する取り組みについては、継続して検討を行うこととし、またアンケートで多くのご意見ご要望のあった津波浸水想定区域外への通学については、学校等の規模適正化等の取り組みと切り離して、引き続き検討していきたいと考えています。

以上になります。

○教育長

今の報告が、議会での諸般の報告で、市長のほうから今回のことについての市民向けの説明といった内容で発表されています。

協議としてはあるかもしれませんが、報告です。何かありますか。

○百田委員

時間がタイムスケジュール的にはかなり延びると思いますので、それまで学校・保育所・幼稚園が再開するまでのしっかりとしたスケジュールも組んでいただければと思います。

○教育次長

タイムスケジュールが延びるということで、防災対策課の取り組みによって、こちらの進み具合も変わってくるという中で、どういうふうなタイミングでどういうことができるかというのが明確に見えない状況にはなっていますが、引き続き本来の「規模」であったり、先ほど言った「将来の人口推計なども基にした勉強会」とかいうものは、教育委員会としても引き続きやっていかなければいけないと思っています。

ただ、特に防災の面で、いつそういう対応ができるのか、というのも、逆に先延ばしになっ

た部分もあるので、先ほど言った再開の計画が大事になってくると思います。

今回、毎年実施していることですが、各保幼小中学校に教育施策の提言や何か現場で感じることはないですか、とお聞きしたときに、特に保育幼稚園の方から、BCPですかね、事業継続計画の策定について、各園ではなかなか難しいので、防災対策課とか教育委員会が関わりながら、その作成に向けてもう少し丁寧とか、早めに取り組んで行きたい、早めに取り組んだらどうか、というような意見が多く出ていたので、これについてはまた、こども課や、学校教育課はそういう形ではない形での計画になるみたいですが、取り組んでいかなければいけないと思っています。

○教育長

ほか、ご意見等ございませんか。

○森本委員

そういう方針で行くということですね。ちょっと私が知っている範囲のことですが、夜須のPTAの役員さんたちが自分たちで自主的勉強会をしているということで、月に1回かと思いきや「これは来年に向けて急いでいる話だ」という感じで思っておられるみたいで、今までの経緯ですけれど、月に2回も集まれる人が集まって話し合いをしています。会長さんは大体ほとんどいらっしゃっていて、あんまり知らない人もいらっしゃるから保育園の会長さんもいるんだと思います。

最近それを聞き、誰でも来ても構わない会ということですので、勉強のために聞きたいと思って、行けるときは参加しています。

それで、この間は土曜日だったから、結構たくさんの人数で、お母さん方も役員さんもいらっしゃっていて皆さんいろいろ話されていたし、会長さんなど意識の高い方たちは自分たちでも勉強しようとかかなり頑張っているのですが、そんな話が今のこの方針と大分ずれています。

今まで皆さんの認識とずれましたよね。そのあたりをご報告します。

○教育次長

ただ、その「再編案を示すのを今回は見せない」というだけで、規模適正化の取り組みを一旦やめろ、するな、というような話ではないので、その部分については夜須の方でせつかく勉強もしてくれているのであれば、私たちが行ってかまわないのであれば、毎回ではなくても教育委員会の職員も一緒に呼ばれて参加したりとか、そんなことも当然できると思います。

その中で夜須のワークショップなどに行く前でも、保護者のほうから「こういうふうなのがいいんじゃないか」という意見が出れば、当然それについてもこちらも検討とかするのはできる話だと思いますので、それは積極的に同じようにやってもらっても全然いいと思いますし、ありがたいと思います。

○森本委員

これもご報告だけです。多分、勉強会の内容をそのうち自分たちでまとめるか何かされると思いますが、先日の会議で出た話としては、予算や財政などが今の時点では全然わからないままアンケートが来たりすることに対してはちょっと違和感があるということでした。

「できる、できないというところ」そこは、皆さん知りたいですか、とお聞きしたところ、どんな人も「やはり物事を進めるには人とお金と、もう1つ何か大事なところがあって、そこが抜けたまま、何も決められません」ということでした。その時来ていた役員さんたちは、そこをちゃんと示してもらって「これはできません、これは絶対無理です」と言ってもらったほうが選べられるということでした。

何も難しいことはわからないというお母さんなどもいらっしゃったのですが、同じく「できる、できない」を言ってもらったほうが良いということでした。「地震が」とかいろいろ言われても、いろんな要素がありすぎてわからない、決められませんって言っていました。

○教育長

ですから、今回、単なる理想じゃなくて実現可能を探ったうえで、市の財政的な見通しも含めて本当にできることを外部に選択肢としてお見せしよう、というところまでをやってみたが、先ほども出ていましたけれど「財政難」という壁が一気にぶつかってきて、その示せるものがわからなくなってしまった。「絶対これがいい」と言っても「できない」という話なら、「何のために見せた」という話になるので、市民の方に選んでください、という明確な見通しを持ったものも見えなくなり、お見せできなくなった。

お金のことになったときには「財布は 1 個しかないので、そこにお金を集めるために他の事業を切らないといけない」という話になる。市全体を見て「どれを切ることができて、そして、ここにお金を注ぐということが本当に可能か」というところからトータル的に見ないといけない。その仕事をやってない状態では、市民の皆さんにはお見せすることができませんね、という形になってしまっている。

だから、本当に申しわけないのですが、資料を作っていたけれども、今は言われていることにお答えできる状態にはないですね。

ただ、そんな中でも、うちとして考えているのは、まず子どもたちにアンケートを取ろうと思っています。

お金のことをちょっと横へ置いておいて、自分たちにとって理想的な学校って何か。それが「少人数でアットホーム」という子もいるだろうし、「いろんな可能性、いろんな関わりが欲しい」という子たちだっているだろうし、子どもたちにとっての規模適正化、子ども個人にとっての規模、というものをちゃんと調査してみよう。

それから、同じくお金のことを横へ置いて、教員にとって「どういった学校が理想的な規模か」ですね。もう多くの教員が複数のパターンを経験していますから、大規模の学校も小規模の学校も、或いは他市町村でやった教員もいっぱいおりますので、そんな経験を通して「規模適正という状態は、何を理想として考えるか」というものも、改めてこの期間にアンケートを取り、判断の中にはそれも盛り込みながら、この後の規模適正化を探していこうと考えています。

夜須の話は本当に申し訳ないですね。申し訳ないので、お構いなかったら、教育委員会の者と一緒にその場に座らせていただいて、皆さんが今思われている情報を聞かせていただけたらと思います。

○森本委員

今、教育長がおっしゃったことですが、私もちょっとそこをしていなかったなと思ったんですけど、子どもたちへの説明がいるのではないかという話がありました。地域の方と教育委員会とが話しをして、それが新聞に載ったりする状態ですけど、子どもたちは 2 年ぐらい前から「学校、変わるんだってね」とか、噂で聞いているだけで、本当の当事者が蚊帳の外みたいな感じがある。

勉強会には学校の教頭先生もいらっしゃったので、教頭先生に「子どもたちに何らかのお時間を取り、定期的に考えていく時間が要るんじゃないか」ということをおっしゃっていました。

そしたら、子どもたちも「いきなり決まりました」ではなくて「意見が取り入れられた」とか、「取り入れられなかった理由はこれである」とか、納得ができる。

そして今のところ金銭的な面はちょっと置いとくことでですけども、子どもたちも、中学生だったらもう理解できる年なので「理想はこうだけれども、でも条件があった中でどう思う」とか、そういったことも考えていけるので、そういった方向に行けばいいなと思いました。

○教育長

そうですね。

○亀川委員

財政のことで、できないことと、それから財政のことを考慮して、これやったらできるということが見えているのであれば、「できるところが本当に最善なのか」という作業を同時に並行して進めていって、一定「ゴールとしてこういう姿が見えて見えるんじゃないだろうか」というものを、ある程度教育委員会が描いていないといけないと思う。

そこが「事前復興とどう絡んでいくのか」というイメージを持つポイントだと思うので、その作業を精査して「A という案があったとしても、その A の中には B も C も 3 つぐらいに分かれる可能性もあるんじゃないか」だとか、「最善なのはどれがいいんだろう」という詰めたところを、委員会は委員会として、作業として進めていったほうがよい。できないこと等はできないで仕方ないとしても、やるべきことはまだあるんじゃないかと思います。

○森本委員

今のお話にちょっと絡みますけれども、その会の中でも、その資料では「こうだったらこういう良い面がある」というところが見づらい。「今、皆さん一生懸命頑張った結果、いい感じに学校は運営されているけれども、地震のことも含め、ちょっと世の中が変わってきたので、

こういうふうには持っていくですよ」みたいな感じに読めるんですよね。そこが嫌な感じがする。ごめんなさい。読んだ方が、ですね。多分、地域の方も保護者の方も。

同じことを表現するのも「新しい学校になったらいいことがある」クラブが増えるとか、先生も専門の先生が入って、こういった授業ができるとか、学校が大きかったらちょっと特性のある子どもたちも、こういったことができるとか、何らかのそういったメリットの面をたくさん考えてイメージし「こんな学校ができるんじゃないか」というほうが、明るい像が描けるのではないかと思います。

○教育長

そうですね。何にしてもメリットがない話はなく、魅力もメリットも必ずあるので規模適正化をするのですが、その伝え方については工夫も要るだろうし、そのメリット等の意識共有をどのメンバーの中で、どうやって作っておくか、ということも必要だと思うので、それはまた、教育委員会としても事務局としても、また皆さんにもご意見いただきながら、並行して確認していくようにしたいと思います。

○生涯学習課長

昨日、別の案件で、クラブの地域移行の関係を考えていかななくてはならないことがありました。僕は生徒会を中心にして考えないといけないと思っています。

学校の中で合同生徒会を集めて、全体で香南市の中学校をどうするかとか、クラブ活動をどうするか、という話がないまま大人が動き過ぎているので、子どもたちからまず意見を集約するというのをしないといけないと思っています。中学生とか小学校の高学年だったら自分で考える力もあるので、それをゴールにするわけではないですし、大人たちがどう左右されるかという問題もありますけれど、その意見を中心に大半ぐらいは持ってこない、子どもの意見抜きで話し合いをされていることに、ずっと違和感があります。

僕は、クラブの地域移行で「受けるほう」になりますが、その受けるほうも、本当に子どもたちが望んでいるのかを聞かずに、こうしてあげたらいい、ああしてあげたらいい、という大人の考え方で動き過ぎているところがあるなと思っています、今の意見に賛成です。「合同生徒会」というのを立ち上げて、生徒会の幹部同士で1回話した上で、学校の子どもたちの全体集会をやってもらったらいいかなと思います。

その視点もそうですけど、保護者は保護者で勉強し、子どもたちも集まる会をやってもらったらいいと思う。その中で財政の問題も出てくると思います。

子どもたちの中には、香南市のお金の問題も財政状況も見える子もいるので、香南市の財政状況も財政課が説明しに行くといよい。それも含んで子どもたちに考えてもらうということをやってもらったらいいと思います。そうすると地域全体として、この学校問題を取り上げていくこともできると思っています。

すいません。補足になりました。

○教育長

今、中学校の部活動は、本当に先が見えていない。

10年前だったら、この話は多分「どここの学校に行ったら何部がある」みたいなことが大きな理由になっていましたが、それがいつまで存続するやら、という状態では、この理由も成り立たないことになっている。横にはおけない話ですね、確かに。

一旦、規模適正化のことについては、以上でよろしいでしょうか。

次、「第115回香南市議会定例会へ提案する議案等について」の情報共有があります。

○学校教育課長

学校教育課は、議案とか条例改正とかはありません。

予算の関係で債務負担行為があり、1つが「中学校指導者用教科書等購入業務」ということで、令和7年度の中学校教科書改訂に伴い、令和7年4月から使用する指導者用教科書及び指導書の購入契約を6年度に行うため債務負担行為をあげている。

もう1つが「香南学校給食センターのガス購入業務」ということで、これは令和7年度の給食業務で、液化石油ガスの供給を受けるため、令和6年度中に令和7年度分を債務負担するものということです。

あと補正予算の関係で、定例会で予算計上しているのが、学校等の規模適正化の支援業務というので、6月の定例会で承認いただいて、今度、6年度から7年度の2ヵ年の債務負担行為の

うち、6年度の契約ということで計上しています。

今回、先ほどの説明があったように、お示しをするのがストップしたんですけれども、業務については「今後も学校ごとの児童生徒数の推計や学校区の見直しを検討するための基礎資料の作成などを、アンケートの内容のことも含めて委託業務ということをやっていきます」ということで挙げています。

以上です。

○教育長

こども課、何か

○こども課長

こども課では条例改正の案件が2件です。

先月の定例会で議題として出ささせていただきました「認定こども園に関する条例」が1つと、民間施設のほうの「保育士の配置数、人数の変更などを定めてある条例」の2件になっています。

それと予算のほうでいいますと12月補正予算に上げていますのは、佐古保育所の調理施設についてです。7月・8月の温度を測ってもらったところ、平均すると35℃ぐらいで、ほかの施設は30度ぐらいまでと、余りにも環境が良くないということで、エアコンの取り替えをする予算を出しています。

今の環境は、埋め込み式のエアコンが2基です。それでも暑いのでスポット的にホースのようなものでやっていましたが、なかなかそれでも厳しいということで、2基を替えて1基新しく取りつける予定です。来年の夏の暑い時期までに間に合うように、補正予算を取りますが、工期は来年度までにずれ込んでしまいます。

それと、野市東保育所と野市東幼稚園の改修工事に関することに予算を上げています。それ以外では今年度予算を取っている案件で、野市保育所の園庭の水はけがすごく悪いので改修をするようになっていますが、保育をしながらの工事になりますので、プールの改修工事との兼ね合いから、今年度中に園庭の改修が終わらないため、来年度に先送りをしています。

以上です。

○生涯学習課長

生涯学習課からは、指定管理の関係がございます。

今までもお願いしていた施設の香南スポーツクラブとの協定ですが、今まで2つの協定に分かれていたものを1つにまとめました。1つが、パークゴルフ場の部分が1点と、もう1点が総合体育館と香我美運動広場と香我美トレーニングセンターとこの周辺の部分という2つの協定部分を1つにした全体としての1つ案件という形の指定管理で、選定委員会では採択されていますが、議案として挙げさせていただきました。

それと、予算のことにつきましては、全体で1,200万円の補正を上げております。そのうち1,000万円が会計年度任用職員さんの給料が上がった部分。不足分が1,000万円あがっております。これが40名分。

今回、財政を圧迫してきている「人件費」の問題が出てきたということで、報告させていただきました。

それと、1,200万円のうち・・・円が「子どもよさこいの衣装」を作るということです。本来ならば来年作る予定でしたが、民間の会社の「精工さん」から、約・・・円の「子どもよさこい」のための寄付をいただきましたので、これを何とか使わなくてはならないという話になり、「来年度予算を作るなら、もう今年作っておいて来年着なさい」ということで、3月に向けて今、衣装の素案を作って、また実行委員会にかけてということです。

今回は、予算を12月議会に・・・円計上させてもらったということになります。

以上です。

○教育長

はい。

○教育次長

後は、今回一般質問が全部で15人出てきています。15人のうち、12人分ぐらいに教育委員会への質問があって、各課が答弁するようになっていきます。

また、内容につきましては、後で見いただければと思いますが、教育委員会に関する質問

であったり、この夏の赤岡保育所、吉川みどり保育所の移転に関する話、あと規模適正化が今後どうなっていくのか、とか、平和学習とか、ファミリーサポートセンターのことであったりとか、いろんな分野で各課ともに一般質問が出てきているような感じになっています。

○教育長

「その他」の項目で、今ここにない部分でもお時間をいただきたいことがあります、まず最後、「令和7年度香南市小中学校ほっとスタート実践研究事業について」をお願いします。

○教育研究所長

「ほっとスタート」の件ですけれども、この事業自体が5年度と6年度に実施し、校長会と協議をして成果と課題をみて、7年度をどうするかを協議するというところでスタートしていますが、結論から言うと、もう1年試行期間を延ばしてやらせてもらうということを11月の校長会で依頼しました。

というのは、5年6年とやってきましたが、6年度に新たに国の方から「余剰の授業時間数の削減」という話が出てきたので、夏休みの短縮と余剰の授業時間数を合わせて、しかも2年目から小中学校全部で取り組んでいくということで6年度はやってきました。

それを検証するとしたときに、検証の資料が、今年度であれば1学期の子どもたちの状況だけになってしまって、しかも「その余剰の授業時間数は今年1年間やってみてどうなったのか」「学校の負担化になってないか」とか、そういったところも検証としては、資料として整えることもできないので、継続してもう1年やらせてもらったうえで、検証資料を整えて協議をさせてもらいたいということで、校長会の方に話をしたら、特に反対の意見はでませんでした。

ただ、6年度と同じように「時間数の目安」などは参考資料として提示してもらいたいという意見があり、先日、校長会のほうで、お手元にあります「令和7年度案」ということで説明をさせてもらっています。

基本的に6年度と変わっておりません。

事業内容ですが2日間、夏休みを短くするという形ですので、7年度については28日木曜日、29日金曜日を4時間授業にして、それから9月1日が月曜ですので、長いスタートにならないように緩やかにやらせてもらうことで、2学期のスタートは、負担なくいくのではないかと、というふうに思います。そういった形で来年度お願いするということです。

それから運用については、令和6年度と同じように週の始めや学期始めの時間を減らして負担感を少なくするというのが基本ですが、学校によって余剰の授業時間数が違うので、学校が子どもたちを見て、趣旨に合ってベストというふうなところがあれば、運用でやらせてもらって構わないということで、幅を広げた形でやらせてもらうということです。

中程に7年度のイメージで、参考資料を作っていますが、例えば一番上の小学校のほうで月曜日を全部1時間減らすということになると、7年度は36日ありますので36時間必要になってきます。

夏休みを4時間授業したら8時間分がプラスで生まれますけど、それを引いても26時間ぐらいの余剰時間数をカットすることになりますので、結構厳しいところになります。

それから、学期始めの1週間5日間も全部4時間授業ということにしていくと、これは8時間を除いても18時間必要になってきますので、小学校の実施については調整を取らないといけないところもあったりします。

中学校のほうは基本的に余剰授業時間数というのはあまりないので、削減した8時間で2学期のスタートを緩やかにする。特に自殺事案等が多い2学期始めを中心に子どもたちの負担感を消していくというのは、中学校のほうの主な考え方になりますので、そういった形で、今年度も取り組んでくれています。

それから1点抜かりましたけれど、もう一度やる理由の1つに、今年2日短縮するうちの1日が、台風が来て実質は4時間しか取れてないという事情があります。その中で、中学校のほうは、4時間授業でやると厳しいので、4時間でスタートして、次は5時間にして、それから6時間という形をとった中学校もあります。

また、連休明けも結構しんどいので、少し余裕を持たせるために、そういったところで時間を削減したり、各校が工夫してやってくれています。

そういったものを1年間通した状況で見たうえで来年度の2学期を終えたところでは、資料を整えて校長会のほうとまた相談させてもらえれば、という流れになっていく予定になります。

それで、保護者への周知ですけれども、来年のことについては、昨日の校長会で説明しましたので PTA のほうへはおりて行くと思いますけれども、研究所のほうとしても、子どもたちの 1 学期 2 学期の状況を資料化して「来年度こういう形でいきますよ」ということもお知らせしたうえで、保護者の方へのアンケートを取ります。3 学期も取り組みをする学校がありますので、スタートして 1 月の半ばとかそういったところでアンケートを取らせてもらって検証の資料にしていきたいというふうに思っています。

そのような状況で 1 年間延びて試行させてもらうようになりましたので、そのこともあり、これまで説明をさせていただき報告させていただきました。

以上です。

○教育長

この「ほっとスタート」の件についてご質問等ありませんか。よろしいですか。

そしたら、当初の予定ではここまでですけども、もう少し教育行政の運営等に関わるような内容で非公開としての時間を取らせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

(全員異議なし)

○教育長

秘密会を解きます。

○教育次長

私の方から、今回の議案書と一緒に研修会の案内を同封させていただいていたと思います。

新任教育長と教育委員さんの研修なので、該当になるのは教育長ですけども、書いているように、新任じゃない教育委員さんも参加していただいていたという内容で、今回は「教育委員としてできること」とか「新しい高知市の教育長さんのお話」や、割と教育委員さんのことについての内容の研修になっているようなので、もし日程の都合が合えば、土佐市ですけど、行っていただけたらと思います。

23 日が締め切りになっていますので、もし今の時点で出欠がわかっている方がいらっしゃったら、教えていただきたいです。出席できそうな方いらっしゃいますか。

そしたら今のところは、教育委員さんは出席が難しいということで報告をしておきます。

次回の定例の教育委員会ですが、1 月の 8 日の水曜日の 9 時からということでお願いをしたいと思います。

○亀川委員

すいませんがちょっと欠席でお願いいたします。

○教育次長

はい。

○教育長

それで自分の方からもごめんなさい。

防災の研修ですけど、「市の教育委員会はしっかり」というので、まず 1 回目をやって、そのあと自由参加という形で、教職員は勤務時間外で夜 6 時半から、まったくの任意でやっています。

その呼びかけは、市の教育委員会だけでなく全部に呼びかけています。「もう誰でも来ていいですよ」という呼びかけでやっている分があって、次が 12 月 18 日の夜 6 時半で、その次が 12 月 23 日の夜 6 時半。もう 1 つ、12 月 27 日の午前中、昼間、ということを考えています。

そのほかに、実は単独で「校内研修で来て同じ内容でやって」と呼ばれてる分が 3 校あり、それはそれで校内研修で 3 校昼間、先生方には勤務として聞いていただくというのをやるようにしています。

この夜の 6 時半からの「完全任意」ということについては、ずっと続けるつもりです。1 月に入っても 2 月に入っても、月に 2 回か 3 回ずつぐらい。内容を変えるわけじゃないですけど。

「完全任意」というのは、それをする事で「防災」という文字が目前に出てくる。そういうことの繰り返しをしつこくしつこくやりたくて、そんなことも考えています。

ひょっとと委員さんも、さっき紹介したところなどで、もしお時間がありましたら。参加者には事前申し込みがいきます。全員分資料印刷しますので、全員に資料を持って帰ってもらうの

で、それを構える関係で人数をちゃんと把握してやるようにしていますので、お知らせいただけたら、また、と思いますし、先ほど言ったスケジュールでなくても、繰り返し 1 月も 2 月も当分の間はします。

防災対策課が別の形で何か動き始めたら、僕はちょっと違うポジションかな、と思いますけれども市としての別の企画が立ち上がらない限りは、ずっとこれを続けていこうというふうに思っています。

遅くなりました。

以上で 12 月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午後 0 時 03 分